

勝手気儘に出してきたこの「山と花のたより」もいつの間にか号を重ねて「100号」となりました。雑文、駄文に辛抱強くお付き合い下さった皆様に感謝申し上げます。それから貴重な写真や文章を快くご提供下さった方、花や植物の名前をご教授いただいた方、そして何よりも山行を共にし、苦楽を分かち合っただ下さった多くの方々にお礼を申し上げます。今後ともお付き合いの程よろしくお願い申し上げます。

二上山だより

空梅雨から一転しての長梅雨、夏山での多数遭難事件、豪雨や台風などに驚き、戸惑っている私なんかを尻目に、季節はズイと歩をすすめ、蟬時雨が本格的なものにならないうちから、ネムの花が登山道に散り敷かれ、萩や葛までが花びらを落とし始めています。

大切にしたいキキョウ(キキョウ科キキョウ属)

馬の背と岩屋峠とを結ぶ遊歩道の脇にキキョウ(桔梗)が咲いていました。万葉集などで「朝貌(あさがお)」と呼ばれたのはこの花とされ、秋の七草の一つとして最も親しまれている野草ですが、残念ながら自生は極端に少なくなっており、絶滅危惧種に挙げられています。



花の中央に白く大きく見えるのが雌しべで、成熟すると先端が5つに割れますが、写真ではまだ閉じたままです。一方5本の髭のような雄しべはすでに役割を終えようとしています。

キキョウはおしべと雌しべの成熟時期がずれて(おしべ先熟)、同じ花の花粉では受粉しないで、他の花からの花粉をもらって受粉し、種を作ります(他花受粉)。

だから、ひとつの花だけでは子孫を残せないのです。

「一つぐらいいいだろう」と摘んだり、掘り取ったりすると、それがこの植物を滅ぼしてしまいます。日本人が古代より親しみ、大切にしてきた美しい花が野山で、特にこれまた古代から歌に詠まれた二上山で、いつまでも咲くように皆で大切にしたいものです。

萩が花 尾花 葛花 なでしこの花 女郎花(おみなえし) また藤袴 朝貌の花(万葉集巻八・山上憶良)

好天、富士、高山植物の南アルプス南部縦走 8月2日(日)～6日(木)

オオヤマレンゲ山の会の南ア・光岳～聖岳登山に参加。参加者は3名

一日目(8月2日) 大阪発の高速バスで長野県飯田市の上飯田バス停に、そこからタクシーで便ヶ島(たよりがしま)の聖光(せいこう)小屋に14時すぎに到着。標高970m。

二日目(8月3日) 夜半、深い谷底から見る空は四方を山に切り取られており、その狭いスペースを星の瞬きが埋めていた。

4:30 朝食、5:35 出発、晴れ。登山口・易老渡(いろうど)への道にはタマアジサイ(写真右)、ハガクレツリフネが花を開いていた。6:10 登山口着。つり橋を渡り、早速急坂ののぼりにかかる。半端でない登りだ。

7:20 面平を通過。

11:10 易老岳(いろうだけ・2354m)に。急登に次ぐ急登を計画通りの時間で歩いた女性達のがんばりに感嘆。イチヤクソウ、ゴゼンタチバナ、オトギリソウ、ハクサンフウロ、グンナイフウロ、オサバグサなどを楽しみつつ14:00 県営光小屋に到着。小屋にザックを置いて光岳(てかりだけ・百名山・2591m)に登る。樹林に囲まれて展望は無いが、やっと登ってきたという達成感が大きい。頂上直下の分岐でお地藏さんが、登山者の安全を祈願するか、合掌しながら見つめてくれた。

三日目(8月4日) 快晴。早朝朱に染まり始めた東の空をバックに富士山が黒々と迫る。その景観を見ながら朝食。出発後すぐにイザルケ岳(2540m)に。眺望よく雲海の向こうに恵那山、中央アル

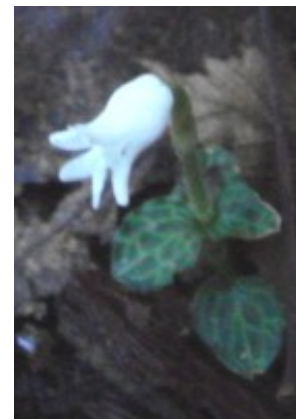
プス、御岳が遠望され、北には今回目指す茶臼岳、上河内岳、聖岳が聳えている。逸る心を抑えてゆっくり歩き、2時間かけて易老岳に。さらに歩いて喜望峰で湯を沸かして軽食を摂り仁田岳(2532m)をピストン。

この仁田岳は赤石山脈の主稜線から東に派生した支脈中のピークだが、森林限界を超えてハイマツの生えた展望のよい尾根歩きとなっている。富士が近く見える。縦走路に戻り北へと山道を辿る。

ハイマツと高山植物のお花畑の中を歩くが花の数も種類も少ない。13時頃茶臼岳(300名山・2604m)に。来し方を



振り返れば、今朝発ってきた光小屋がはるか遠くに見える。14時過ぎに茶臼小屋着。小屋のすぐそばを清流が流れ、まわりのお花畑にはオタカラコウ、シシウド、クルマユリ（写真前頁）、クロクモソウ、トリカブト（種名不詳）、ミヤマバイケイ



←ミヤマクルマバナ ソウなど色とりどり。 アリドオシラン→

四日目(8月5日) 5:30 出発。縦走路の分岐に戻ると行く手に上河内(かみこうち)岳への登りが立ちほだかる。登りは急だがハイマツの中にハクサンシャクナゲが咲き、イワツメクサ、イワベンケイ、コイワカガミ、ヨツバシオガマなどが慰めてくれる。やがて上河内岳分岐に着き、往復15分で山頂(2803m・200名山)ピストン。素晴らしい眺望と色彩豊かなお花畑を楽しみつつ、注意して険路を下る。10時過ぎに聖平小屋着。

宿泊手続きをして、雨具と水、食料を持って聖岳に向かう。途中で鹿よけフェンスが張っており、その内外の情景の違いに驚く。中は草木が生い茂り、多種多様な花々が今を盛りと咲き誇っているが、外は萱の仲間が丈も短く生えているだけなのだ。小屋近くで見かけた鹿の太った姿が思い起こされる。低山帯で暮らしていた鹿が何故か最近高山に住み着いて高山植物を食い荒らし、ここではニッコウキスゲなどが絶滅したようだ。

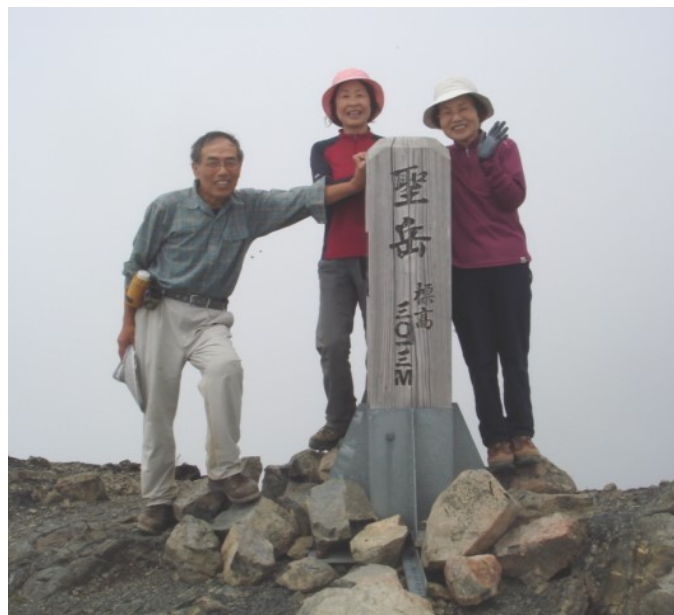
高山植物の将来を憂えつつ、ガレ場の急登をゆっくり登る。霧が出て、快晴でないのが幸いして、汗のしたたる体に吹く風が涼しい。

13時すぎ、ついに聖(ひじり)岳(3013m・100名山) 山頂着。女性たちが握手した手を激しく打ち振っている。顔にも声にも姿にも喜びが溢れていて、見ている方にまで伝染してきそうだ。

ガスの切れ間、切れ間に四囲の景観がスライドショーさながらに現れる。さすが南ア的高峰たちだ。すぐ北には見え隠れしながら赤石岳の大きな姿が見える。見飽きることのない景色に未練は残るが、下ることにする。夕食はこの日も美味しかった。

五日目(8月6日) 4:30 朝食 5:30 出発→6:00 薊畑分岐点 下山開始。私は10年ほど昔にこの坂を登って聖岳に登ったのだが、「きつい急登」の記憶が鮮明で、今回は下りに設定したのだった。それにしてもすごい急下降だ。行き違う登りの登山者がいずれも氣息奄々、まともに挨拶すらしようとしない。ケガをしないよう注意深くくださるが、「大自然の中を歩いている」との思いを強くさせられる。

9:30 西沢渡 奈良の十津川村にある「野猿」よろしく「ケージ」に乗って溪流を渡り、林道を歩いて10:15 聖





上ミヤマコゴメグサ

光小屋に下り立つ。やっと帰ってきたのだ。タクシーで飯田城址にある天空の城温泉で汗を流し、隣接する市立美術博物館を見学。温泉受付嬢の推薦するそば処高田屋で空腹を満たして 17:14 上飯田バス停発の高速バスで帰った。いい山旅だった。

以上 100 号 (選挙中休刊します)



上クロクモソウ



上 もうすぐ光(てかり)小屋

下 聖岳中腹で

右マルバダケブキ

